

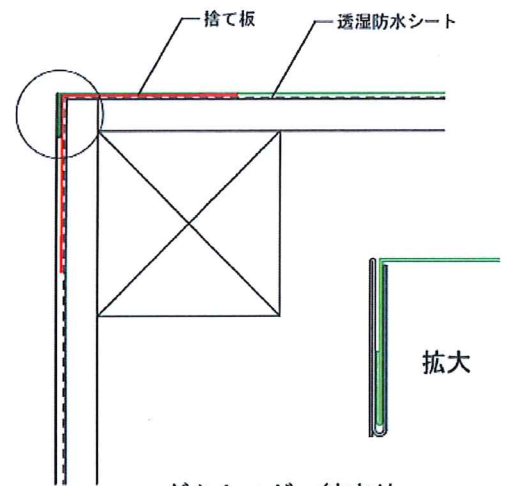
一文字、ヒシ葺きにおける「出隅」納まりについて

2018年3月27日

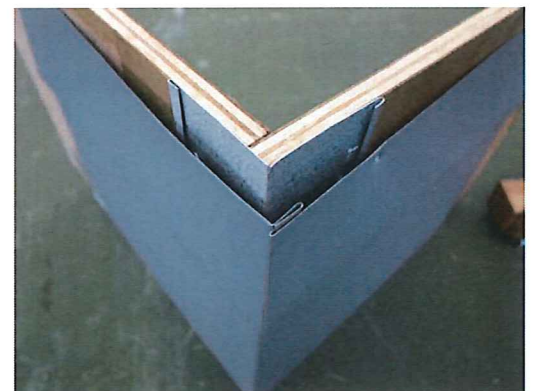
株式会社 タニタハウジングウェア

この度は、弊社一文字、ならびにヒシルーフにつきましてご採用をご検討頂き誠にありがとうございます。早速ではございますが、各部納まりについてご説明いたします。あくまでも納まりの一例となりますことをご了承願います。

出隅部分の納まり①

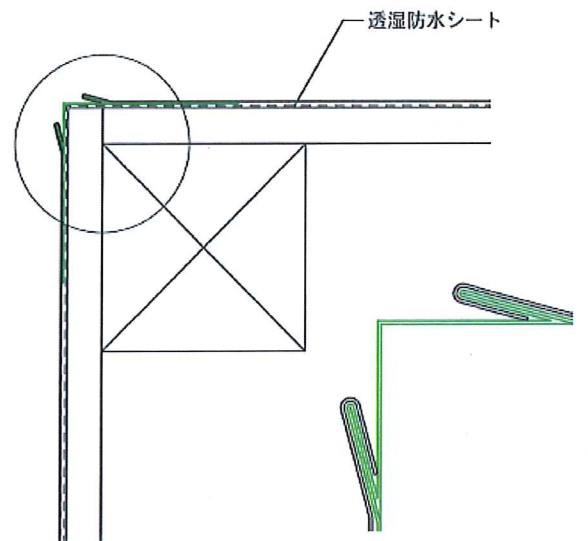
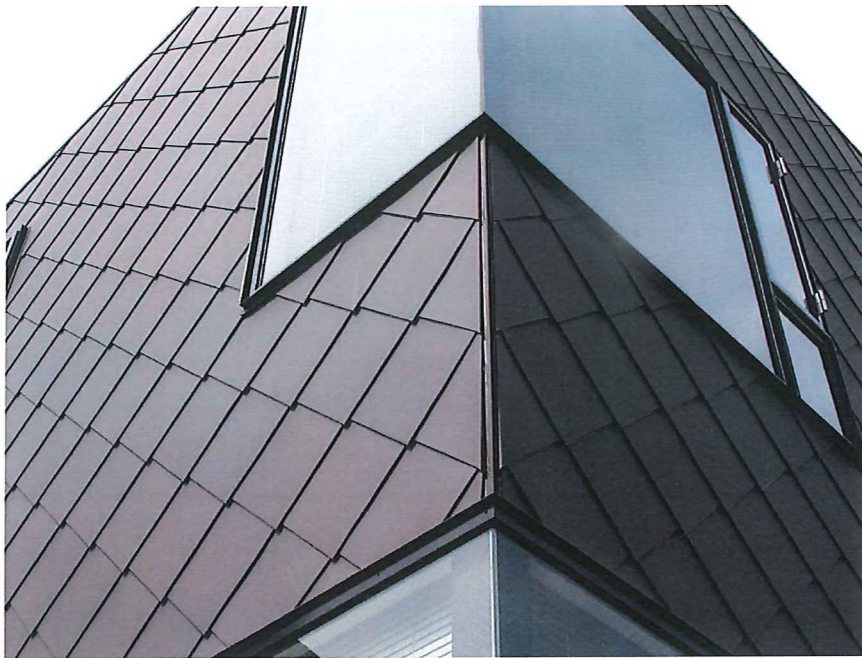


ダクトハゼ 納まり
(捨て板必要)



一般的な納まりとなります。コーナー部分にエッジをきかせた見せ方となります。一文字の場合は、上下方向の見え方が「ノコギリ」形状のように多少の段差が出てしまいます。施工については、雨仕舞いの為「捨て板」を入れる必要があります。また、ダクトバゼを現場加工する必要があり手間がかかる納まりとなります。

出隅部分の納まり②



捨て板兼用

屋根の谷樋と同様な納まりとなります。捨て板部分が多少見える状態となります。しかしながらハゼを掴みこんでから押さえることが可能なので上下の段差が生じにくい納まりとなります。

施工については捨て板を入れる必要がなく、通常屋根の谷樋と同様ハゼを掴みこむ施工となります。ダクトバゼとは違い現場での加工が少なく比較的施工しやすい納まりとなります。

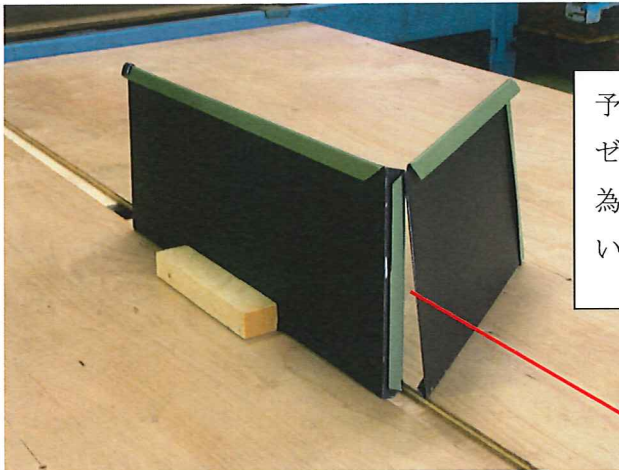
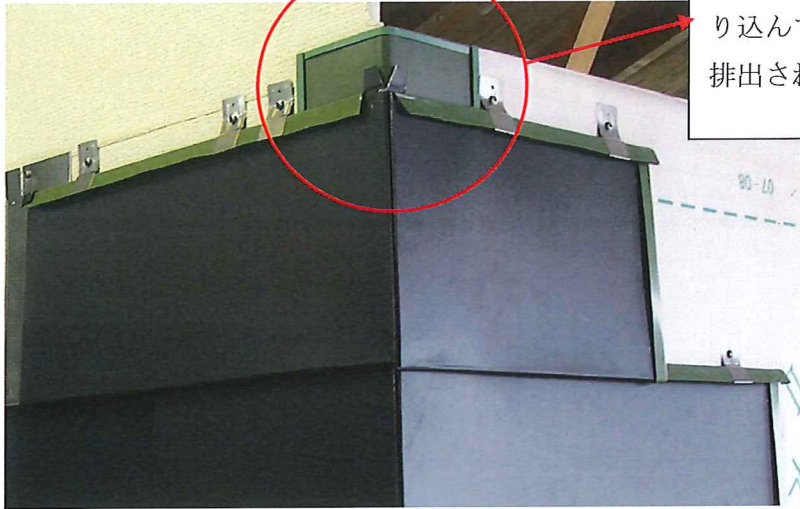
※出隅部分に関しましては、雨風が非常にあたる部分「局部」となります。二次防水（透湿防水シート）は二重張り等の防水処理対策をお願い致します。

以上

出隅部の納まりについて

壁用としての役物は、用意がありませんので板金業者様に加工、納まりを委ねることになります。

画像の様な捨て板金を下地に取り付けておけば、雨が入り込んでも、土台水切りで排出されます。



予め左図のように現場成型し、ハゼ組をします。弊社で役物がない為、板金業者様にハゼ加工をお願いすることになります。

